

地球温暖化対策計画書届出書

令和 4 年 7 月 28 日

名古屋市長 様



届出者 住 所 名古屋市中村区太閤三丁目1番18号 名古屋KSビル12階  
氏 名 株式会社エスカ  
代表取締役社長 広井幹康

(代理人) 氏 名  
(法人の場合は、所在地、名称及び代表者氏名)

市民の健康と安全を確保する環境の保全に関する条例第98条第1項の規定により、地球温暖化対策計画書の作成について、次のとおり届け出ます。

工場等の名称		エスカ エスカ		
工場等の所在地		愛知県名古屋市中村区椿町6番9号先		
業種等	業 種	不動産業、物品賃貸業		
	業務部門における建築物の主たる用途	物販店		
事業の概要		駐車場及び地下街（飲食・物販）		
連絡先	担当部署	会社名・担当部署	株式会社エスカ 施設部	
		住 所	〒453 - 0801 名古屋市中村区太閤三丁目1番18号 名古屋KSビル12階	
	担当者氏名	成澤守		
	電話番号等	電話番号	052-452-1181	
		ファクシミリ番号	052-452-1670	
		電子メールアドレス	narusawa@esca-sc.com	
地球温暖化対策計画書		別添のとおり		
工場等番号		※		

注1 連絡先には地球温暖化対策計画書の内容に関する担当部署名等を記入してください。

2 ※印のある欄は記入しないでください。

備考 用紙の大きさは、日本産業規格A4とします。

地球温暖化対策計画書

1 地球温暖化対策事業者の概要

地球温暖化対策事業者 (届出者)の名称	株式会社エスカ
地球温暖化対策事業者 (届出者)の住所	名古屋市中村区太閤三丁目1番18号 名古屋KSビル12階
工場等の名称	エスカ
工場等の所在地	愛知県名古屋市中村区椿町6番9号先
業種	不動産業、物品賃貸業
業務部門における 建築物の主たる用途	物販店
建築物の所有形態	賃貸ビル等(賃貸している建築物)
事業の概要	駐車場及び地下街(飲食・物販)
計画期間	令和4年4月1日 ~ 令和7年3月31日

2 地球温暖化対策計画書の公表方法等

公表期間	~ 令和7年3月31日	
公表方法	<input type="checkbox"/>	掲示 閲覧 (場所)
	<input checked="" type="checkbox"/>	ホームページ (HPアドレス) <a href="http://www.esca-sc.com">http://www.esca-sc.com</a>
	<input type="checkbox"/>	冊子 (冊子名・ 入手方法)
	<input type="checkbox"/>	その他 (その他詳細)
公表に係る問合せ先	(株)エスカ 施設部 052-452-1181	

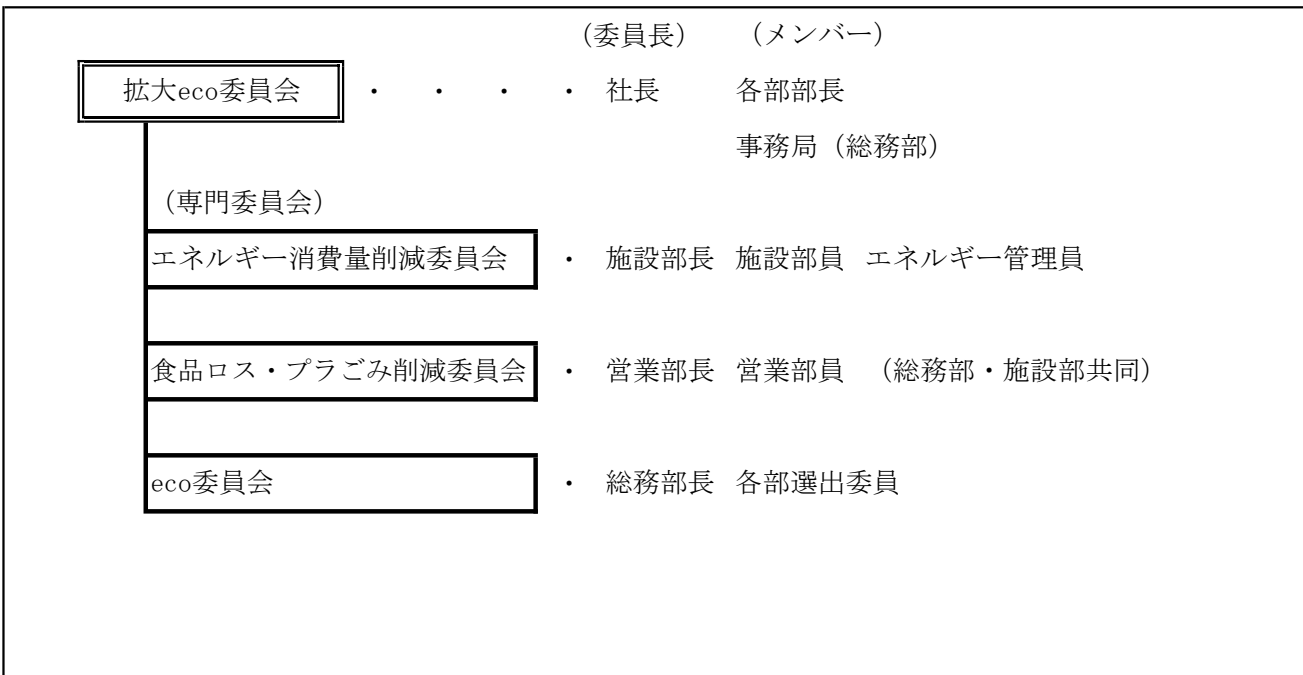
### 3 地球温暖化対策の推進に関する方針及び推進体制

#### (1) 地球温暖化対策の推進に関する方針

1. 省資源省エネルギー活動を推進します。  
2. 従業員への環境に関する教育をすすめ、意識の向上を図ります。  
3. 廃棄物の発生を抑制し、リサイクルを推進します。

当社は社会の一員としてSDGsに取り組むとしており、その一環として環境管理システムの構築を目指し、全社横断的な組織として「eco委員会」を設置し（令和2年12月、委員長：社長、事務局長：総務部長）、環境問題に関する協議・活動を定期的実施し、令和3年10月29日には「なごやSDGsグリーンパートナーズ」の「認定エコ事業所」認定を受けました。  
引き続き、「認定優良エコ事業所」認定取得を目標とし、人と環境にやさしい愛される街づくりを目指し、環境負荷の軽減などに取り組んでいきます。

#### (2) 地球温暖化対策の推進体制



4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和3年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		2,958	t-CO <sub>2</sub>
①を （温室除 酸効 く 化果 炭ガ 素排 換算 ） 排出 量	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO <sub>2</sub>
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO <sub>2</sub>
	④メタン		t-CO <sub>2</sub>
	⑤一酸化二窒素		t-CO <sub>2</sub>
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO <sub>2</sub>
	⑨三ふっ化窒素		t-CO <sub>2</sub>
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO <sub>2</sub>
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		2,958

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項 目	基準年度 令和3年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和6年度 目標削減率	
	温室効果ガス 総排出量		t-CO <sub>2</sub>		t-CO <sub>2</sub>	

項 目	基準年度 令和3年度 排出量（実績）		目標年度 目標排出量		令和6年度 目標削減率	
	原単位あたりの 排出量	0.1014	t-CO <sub>2</sub> / m <sup>2</sup>	0.1132	t-CO <sub>2</sub> / m <sup>2</sup>	▲ 11.6

（平成30年度基準）

(2) 目標設定の考え方

令和3年度は、コロナ禍による「休業」及び「営業時間短縮」等の影響を受けたため、排出量も低下しており基準年度とするには適切ではない。  
 故に、コロナ感染症拡大前の平成30年度（0.1443t-CO<sub>2</sub>/m<sup>2</sup>）を基準にするのが適切と思われる。  
 これを、令和3年度の排出係数で算出すると（0.1204t-CO<sub>2</sub>/m<sup>2</sup>）となり、年1%の削減を掲げ6年で6%削減（0.1132t-CO<sub>2</sub>/m<sup>2</sup>）を目標とする。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
省エネルギー・省資源行動の実践	・中間期における外気冷房の積極的導入する。	3～5月、11～12月の中間期は外気温度が20℃以下の場合に外気冷房を実施する。
省エネルギー・省資源行動の実践	・地下街通路照明の一部（水銀灯・蛍光灯）器具のLED器具への更新を実施する。	随時更新する。 地下街共用部の蛍光灯をLEDに更新する。 （令和4年度より3ヵ年計画）
省エネルギー・省資源行動の実践	・照明、受変電等 使用していない部屋の照明は消灯する。	随時実施する。
省エネルギー・省資源行動の実践	・長時間使用する送風機等のベルトは省エネタイプとする。	随時実施する。
一般管理・エネルギー使用量の把握及び管理	・日常的なエネルギー使用状況を把握し定期的な分析を実施する。	年度ごとにエネルギー使用状況をまとめ分析する。

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

ア これまでに実施している再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 計画期間における再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用

--

(3) 環境価値（クレジット等）の活用

--

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

--

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組

--

エネルギー使用量（原油換算）及びエネルギー起源二酸化炭素排出量算定表  
 基準年度（令和 3 年度）

添付

燃料の使用	使用量		単位当たり発熱量		熱量	CO <sub>2</sub> 排出係数		CO <sub>2</sub> 排出量	
	①		②		①×②	③ (参考) ②×③×44/12		①×②×③×44/12 (都市ガスは①×③)	
	数量	単位	単位		GJ	t-C/GJ	単位	t-CO <sub>2</sub>	
原油(コンテナメントを除く)		kL	38.2	GJ/kL		0.0187	2.62	t-CO <sub>2</sub> /kL	
コンテナメント(NGL)		kL	35.3	GJ/kL		0.0184	2.38	t-CO <sub>2</sub> /kL	
ガソリン	工場等	kL	34.6	GJ/kL		0.0183	2.32	t-CO <sub>2</sub> /kL	
	自動車等	kL	34.6	GJ/kL		0.0183	2.32	t-CO <sub>2</sub> /kL	
ナフサ		kL	33.6	GJ/kL		0.0182	2.24	t-CO <sub>2</sub> /kL	
灯油		kL	36.7	GJ/kL		0.0185	2.49	t-CO <sub>2</sub> /kL	
軽油	工場等	kL	37.7	GJ/kL		0.0187	2.58	t-CO <sub>2</sub> /kL	
	自動車等	kL	37.7	GJ/kL		0.0187	2.58	t-CO <sub>2</sub> /kL	
A重油	工場等	kL	39.1	GJ/kL		0.0189	2.71	t-CO <sub>2</sub> /kL	
	自動車等	kL	39.1	GJ/kL		0.0189	2.71	t-CO <sub>2</sub> /kL	
B・C重油	工場等	kL	41.9	GJ/kL		0.0195	3.00	t-CO <sub>2</sub> /kL	
	自動車等	kL	41.9	GJ/kL		0.0195	3.00	t-CO <sub>2</sub> /kL	
石油アスファルト		t	40.9	GJ/t		0.0208	3.12	t-CO <sub>2</sub> /t	
石油コークス		t	29.9	GJ/t		0.0254	2.78	t-CO <sub>2</sub> /t	
液化石油ガス(LPG)	工場等	t	50.8	GJ/t		0.0161	3.00	t-CO <sub>2</sub> /t	
	自動車等	t	50.8	GJ/t		0.0161	3.00	t-CO <sub>2</sub> /t	
石油系炭化水素ガス		千Nm <sup>3</sup>	44.9	GJ/千Nm <sup>3</sup>		0.0142	2.34	t-CO <sub>2</sub> /千Nm <sup>3</sup>	
液化天然ガス(LNG)	工場等	t	54.6	GJ/t		0.0135	2.70	t-CO <sub>2</sub> /t	
	自動車等	t	54.6	GJ/t		0.0135	2.70	t-CO <sub>2</sub> /t	
天然ガス(液化天然ガスを除く)		千Nm <sup>3</sup>	43.5	GJ/千Nm <sup>3</sup>		0.0139	2.22	t-CO <sub>2</sub> /千Nm <sup>3</sup>	
原料炭		t	29.0	GJ/t		0.0245	2.61	t-CO <sub>2</sub> /t	
一般炭		t	25.7	GJ/t		0.0247	2.33	t-CO <sub>2</sub> /t	
無煙炭		t	26.9	GJ/t		0.0255	2.52	t-CO <sub>2</sub> /t	
コークス		t	29.4	GJ/t		0.0294	3.17	t-CO <sub>2</sub> /t	
コールタール		t	37.3	GJ/t		0.0209	2.86	t-CO <sub>2</sub> /t	
コークス炉ガス		千Nm <sup>3</sup>	21.1	GJ/千Nm <sup>3</sup>		0.0110	0.85	t-CO <sub>2</sub> /千Nm <sup>3</sup>	
高炉ガス		千Nm <sup>3</sup>	3.41	GJ/千Nm <sup>3</sup>		0.0263	0.33	t-CO <sub>2</sub> /千Nm <sup>3</sup>	
転炉ガス		千Nm <sup>3</sup>	8.41	GJ/千Nm <sup>3</sup>		0.0384	1.18	t-CO <sub>2</sub> /千Nm <sup>3</sup>	
都市ガス(東邦ガス)	工場等	204.4	千Nm <sup>3</sup>	45	GJ/千Nm <sup>3</sup>	9,198	2.29	t-CO <sub>2</sub> /千Nm <sup>3</sup>	468
	自動車等		千Nm <sup>3</sup>	45	GJ/千Nm <sup>3</sup>		2.29	t-CO <sub>2</sub> /千Nm <sup>3</sup>	
その他燃料									
その他燃料									
小計					9,198			468	
他人から供給された電気及び熱の使用	使用量		単位当たり発熱量		熱量	CO <sub>2</sub> 排出係数		CO <sub>2</sub> 排出量	
	④		⑤		④×⑤	⑥		④×⑥	
	数量	単位	単位		GJ		単位	t-CO <sub>2</sub>	
電気事業者(中部電力)	昼間	5,576.8	千kWh	9.97	GJ/千kWh	55,601	0.379	t-CO <sub>2</sub> /千kWh	2,114
	夜間	993.8	千kWh	9.28	GJ/千kWh	9,222	0.379	t-CO <sub>2</sub> /千kWh	377
その他電気事業者(事業者名)	昼間		千kWh	9.97	GJ/千kWh			t-CO <sub>2</sub> /千kWh	
	夜間		千kWh	9.28	GJ/千kWh			t-CO <sub>2</sub> /千kWh	
その他電気事業者(事業者名)	昼間		千kWh	9.97	GJ/千kWh			t-CO <sub>2</sub> /千kWh	
	夜間		千kWh	9.28	GJ/千kWh			t-CO <sub>2</sub> /千kWh	
その他電気事業者(事業者名)	昼間		千kWh	9.97	GJ/千kWh			t-CO <sub>2</sub> /千kWh	
	夜間		千kWh	9.28	GJ/千kWh			t-CO <sub>2</sub> /千kWh	
上記以外の買電			千kWh	9.76	GJ/千kWh			t-CO <sub>2</sub> /千kWh	
産業用蒸気		GJ	1.02	GJ/GJ		0.060	t-CO <sub>2</sub> /GJ		
産業用以外の蒸気		GJ	1.36	GJ/GJ		0.057	t-CO <sub>2</sub> /GJ		
温水		GJ	1.36	GJ/GJ		0.057	t-CO <sub>2</sub> /GJ		
冷水		GJ	1.36	GJ/GJ		0.057	t-CO <sub>2</sub> /GJ		
上記以外の熱		GJ		GJ/GJ			t-CO <sub>2</sub> /GJ		
小計					64,823			2,490	
合計					⑦ 74,021			⑧ 2,958	
自ら生成した熱の他者への供給※		GJ		GJ/GJ			t-CO <sub>2</sub> /GJ		
自ら生成した電気の他者への供給※		千kWh		GJ/千kWh			t-CO <sub>2</sub> /千kWh		
合計					⑨			⑩	
原油換算エネルギー使用量 (⑦-⑨) × 0.0258					1,910			kL	
エネルギー起源二酸化炭素排出量 ⑧-⑩					2,958			t-CO <sub>2</sub>	

※燃料を使用して生成した熱及び電気を他者へ供給した場合に限る。自然エネルギー等により生成した熱及び電気を他者へ供給した場合は含まれない。

【事業所の規模】

延床面積	29,180.00	m <sup>2</sup>
------	-----------	----------------

【自動車等の数】

① 単位（台）

燃料の種類	乗用	貨物
ガソリン		
軽油		
L P G		
天然ガス		
電気		

②その他の輸送機械

種別	数	単位
鉄道		両
船舶		隻
航空機		機

(以下は該当する場合に記入して下さい)

【排出量抑制目標に原単位排出量を用いる場合】

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

原単位の指標	数量	単位
延べ床面積	29,180.00	m <sup>2</sup>

上記の原単位指標を用いた考え方

総排出量の予測が困難のため  
 エネルギー起源二酸化炭素排出量÷延床面積＝原単位  
 2,958t-CO<sub>2</sub> ÷ 29,180m<sup>2</sup>=0.1014t-CO<sub>2</sub>/m<sup>2</sup>